

2025年5月15日

各 位

会 社 名  株式会社 日阪製作所

代 表 者 名 代表取締役社長 宇佐美 俊哉
社長執行役員

コード番号 6247

上 場 取 引 所 東証プライム

問 合 せ 先 取締役上席執行役員 波多野 浩史
管理、経営戦略、IR 担当

電 話 番 号 06-6363-0015

通期個別業績の前事業年度実績値と当事業年度実績値との差異に関するお知らせ

当社は個別業績予想を開示しておりませんが、個別決算における当事業年度の実績値が、前事業年度の実績値から一定以上変動いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2025 年 3 月期通期個別業績と前事業年度実績値との差異（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益(円)
2024 年 3 月期 実績値 (A)	27,967	1,702	2,214	1,947	69.05
2025 年 3 月期 実績値 (B)	31,104	1,683	2,381	3,159	113.41
増減額 (B－A)	3,137	△18	167	1,221	
増減率 (%)	11.2	△1.1	7.6	62.2	

2. 差異の理由

当事業年度における世界経済は底堅く推移したものの、地政学的リスクの継続や金利・為替の変動等が懸念される不安定な状況にありました。国内経済は堅調な企業業績を背景に緩やかな回復傾向が見られましたが、物価上昇や国際情勢の変動などにより、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社におきましては、昨年奈良県に開設した「生駒事業所」でのプロセスエンジニアリング事業の安定稼働を図るとともに、熱交換器事業、バルブ事業の生産体制強化に向け「鴻池事業所」の再構築を進めました。また、中東や東南アジアに関係会社を設立するなど、事業拡大、生産性向上のための施策を実施しました。

以上の状況の中、売上高は、熱交換器事業及びプロセスエンジニアリング事業が好調に推移したことや豊富な受注残などがあったことから、前年度に比べ増収となりました。利益面では、原材料価格の高騰に加え、賃上げによる人件費や生駒事業所開設に伴う減価償却費の増加の影響等で営業利益は微減となりましたが、前年度に引き続き政策保有株式の売却益があったほか、補助金収入などの特別利益を計上したことにより、当期純利益は大幅な増益となりました。

以 上